

寄贈された子牛と動物科学科の生徒たち
＝高山市の飛騨高山高校山田キャンパス



農業学ぶ高校生へ子牛寄贈

JA飛騨ミート「飛騨牛 生産技術学んで」

飛騨牛の生産技術を学んでもらおうと、JA飛騨ミート（高山市）は6日、県立飛騨高山高校に雌の子牛1頭をプレゼントした。動物科学科の2年生が卒業する頃まで世話を続けて出荷する。

JAは、去勢牛ほど体が大きくなり、飼いにくいとされる雌の子牛を実習用として毎年、同校に贈っている。これまで肥育された8頭が出荷され、枝肉は格付けで最高の5等級が7頭、4等級が1頭と高評価を受けたという。

10頭目の今回は、5月に55万6千円で競り落とした市内産を贈った。体重が240^{キログラム}ほどあり、600～700^{キログラム}になるまで育てる。

子牛の寄贈式で、同学科の岡田絆司さん(16)は「この先の農業を支えていけるように勉学に励みます」と、JA関係者にお礼を述べた。（荻野好弘）